

単収 200kg/10a 以上、大粒比率向上に向けて

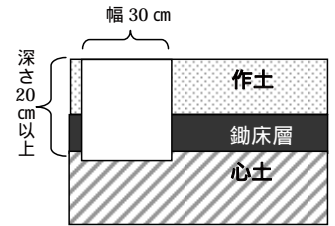
「排水対策」「土づくり」「適正播種」で目標苗立数と初期生育を確保！！

1 排水対策

用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
額縁排水溝は、幅 30cm、深さ 20cm 以上を目安に設置しましょう。
 基幹排水溝と排水口を確実に連結し、雨後に溜まり水のある場合は、溝の手直しを行いましょう。

営農排水技術メニュー

侵入水排除 (畦畔補強等)
明渠(額縁排水溝)
排水口の掘り下げ
畝立て栽培



額縁排水溝イメージ図

2 土づくり

地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。
 耕起前に必ず**石灰質資材を 100~200kg/10a 施用**し、
土壌 pH 6.0 ~ 6.5 を確保しましょう。

堆肥の施用量目安

種類	10a 当たり施用量
牛ふん堆肥	1 ~ 2 t
発酵鶏糞	100 ~ 200 kg

3 病虫害防除

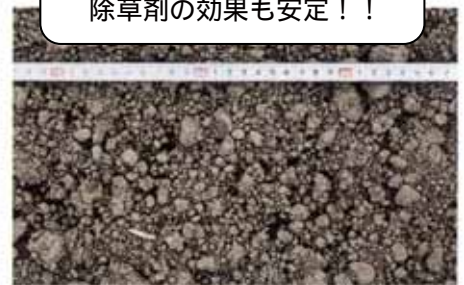
種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず種子塗沫処理を行ってください。

薬剤名	処理法	対象病虫害等
クルーザーMAXX	種子 1 kg 当たり 8m 塗沫	紫斑病、苗立枯病、茎疫病、黒根腐病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト(忌避)
キヒゲンR-2フロアブル (病虫害発生が少ない場合)	種子 1 kg 当たり 10m 塗沫	紫斑病、苗立枯病、タネバエ、ハト(忌避)

4 播種作業

土壌が乾いた条件で、**耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業は一日で行い**、砕土率 60% 以上を確保しましょう(右写真参照)。
 目標栽植本数を確保できるよう播種機の準備を事前に行いましょう。
 作業速度は**ゆっくり歩く程度の速さ(0.5m/秒)**で行い、**播種深度は 3cm**を目安としましょう。
除草剤散布は、播種・覆土直後、土が乾かないうちに行いましょう。

出芽・苗立ちが安定し、
揃いも良くなる！
除草剤の効果も安定！！



砕土率 60% 以上の土壌

播種時期別的大豆播種量(1株2粒播き・条間 80cm)

品種	播種時期	播種粒数 (粒/m)	栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)
エンレイ	~ 6月上旬	12~14	14,000~16,000	5.1~5.9
	6月中旬	14~17	16,000~18,000	5.9~6.6
オオツル	6月上旬	9~11	10,000~12,000	4.6~5.5
	6月中旬	11~12	12,000~14,000	5.5~6.4
シュウレイ	~ 6月上旬	11~13	12,000~15,000	4.9~6.1
	6月中旬	13~17	15,000~18,000	6.1~7.3

本年の大粒種子は百粒重が概ね前年並みのため、前年と同程度準備しましょう。

基肥量の目安

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)
BB084 (10:18:24)	砂壤~壤土	30~40
	埴壤土	20~30

麦跡のN量は、それぞれ2kg多くする

除草剤 (下表のいずれか)

除草剤名	散布量(/10a)
トリアリット [®] 粒剤 2.5	4~6 kg
ラッカー粒剤	4~6 kg